令和5年度当初予算の概要

●予算編成にあたっての基本的な考え方

水道事業、電気事業の両「経営計画」の最終年度であり、目標の達成に向けた水道管路の更新や、老朽化した相模ダムの「リニューアル事業」など、主要な取組を着実に推進します。
大規模地震の発生に備え、水道施設の耐震化を進めるとともに、近年の台風などによる大規模な水害の教訓と「神奈川県水防災戦略」の見直しを踏まえ、浸水、停電対策の充実など、風水害への備えを強化します。
脱炭素社会の実現に向けて、水道施設の省エネルギー化や再生可能エネルギーの普及促進、地産地消などをさらに進めるとともに、経営基盤の強化に向けたDXの推進など、次期経営計画を見据えた取組を推進します。

●令和５年度当初予算の事業別内訳

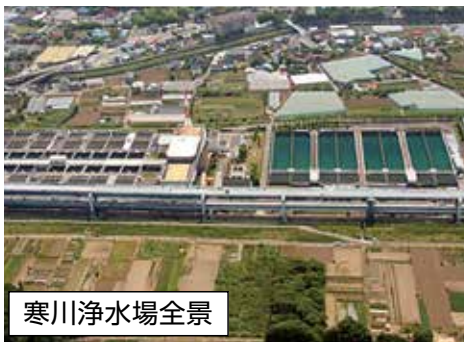
（単位　千円）

会計名	勘定区分	収入予算額	支出予算額	備　　考	
水道事業会計	損益	60,831,758	58,021,050		
	資本	21,122,566	41,567,468		
	計	81,954,324	99,588,518	当年度利益剰余金	347,929
電気事業会計	損益	8,567,331	8,303,342		
	資本	704,888	2,558,871		
	計	9,272,219	10,862,213	当年度利益剰余金	129,521
公営企業資金等運用事業会計	損益	875,311	693,139		
	資本	4,442,853	8,268,899		
	計	5,318,164	8,962,038	当年度利益剰余金	239,206
相模川総合開発共同事業会計	損益	2,393,507	2,393,507		
	資本	270,845	270,845		
	計	2,664,352	2,664,352		
酒匂川総合開発事業会計	損益	1,552,079	1,552,079		
	資本	39,437	39,437		
	計	1,591,516	1,591,516		
合　計	損益	74,219,986	70,963,117		
	資本	26,580,589	52,705,520		
	計	100,800,575	123,668,637	当年度利益剰余金	716,656

●主な事業内容

■水道事業

①管路更新及び水道施設耐震化の推進　225 億　753 万円
②水道施設の浸水対策　3 億 7,719 万円
③水道施設の停電対策　1 億 4,447 万円
④水道施設の脱炭素化　2 億　102 万円


寒川浄水場全景

■電気事業

①相模貯水池堆砂対策事業　23 億 7,556 万円
②相模ダムリニューアル事業　3 億 4,502 万円

相模ダムリニューアル事業図

持続可能な開発目標（SDGs）の推進

SDGｓとは、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）として、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17の目標（ゴール）等が設定されており、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、本県、国も積極的に取り組んでいます。

県企業庁としても、安全で良質な水の安定供給、電力と水道用原水の安定供給の取組みを通じて、目標達成の実現を図ります。

●ＳＤＧｓと県企業庁の取組みに関係する目標（ゴール）